

## 夏小ギクの耐冬性新品種について

山中 昭 雄

### I 緒 言

今日栽培されている夏ギクの大部分の品種は、東海や瀬戸内の暖地で育成されたものが多く、本県のような内陸部、特に黒ボクの畑地では越冬中の吸枝に対する直接の凍害のほか、凍上による断根、吸枝の切断、凍結層による干害などの障害が大きく、露地栽培においては経営的に安定収穫を得るほどの株立ちを期待できる品種は少ない。したがって、露地夏ギク栽培の積極的な導入をはかるためには、簡易な越冬法を開発した試みもあるが<sup>2)</sup>、耐冬性の品種を育成することが最も効果的な手段であると考えられる。

過去において、特定の生態型を対象とした育種の形跡はなく、また、現存する品種のすべては遺伝的に極めて雑ばくで、<sup>1)</sup>かつ、その育種も古くから民間園芸家の経験的なカンによって行われているため、品種の系譜、遺伝関係も明らかにされていない。したがって、耐冬性品種の育成に関する記録はまったくない。しかし、既成品種の中には、越冬状態にかなりの変異が観察されるところから、ここに耐冬性を主目的とした品種の育成を試み、有望な新品種を育成したので報告する。

### II 育成経過

1967年秋に、これまでの越冬状況などから白麗ほか6品種を母本として、これらの品種間、及び当场実生の2系統を花粉親として加え、いずれも混合受粉により採種した。1968年1月に母系別に実生し、6~7月に予備選抜、

次年に第一次選抜を行い、1969年秋定植の第二次選抜では、栽培上の特性のほか市場出荷による評価も受け、おおむね育種目標に合致した系統の中から花色、開花期を考慮して、6系統を選抜し、1970年新品種として命名した。更に1970年に実施した実生系統間交配から1系統、及び白麗からの枝変り1系統を選抜し、1973年に両者を新品種として命名した。なおこれらの関係は第1図に示した。また、育成品種の特性一覧を第1表に示したが、これら品種の耐冬性は、開花期と草丈との関係、切り花収量などの対照品種との比較からも証明され、選抜の効果は明らかである。

### III 特性概要

#### 1. 栃の朝(とちのあさ)

ごく早生で、白色弁の先端が赤く着色しているため、開花すれば白地に赤の目入りとなるボンボン咲きである。紫かっ色の丈夫な茎で、花首まで太い。命名は花色から栃木の郷のさわやかな朝日になぞらえた。

#### 2. 和楽(わらく)

早生、紫紅色の二重弁で心は黄色となり、八重咲きの多い早生小ギクの中では消費の面で特徴がある。早生としては草丈の伸びもよいが、着葉間隔はややあらい、命名は色調から、郷土芸能和楽おどりのなごやかなふん囲気を連想させることによった。

#### 3. 鬼怒の華(きぬのはな)

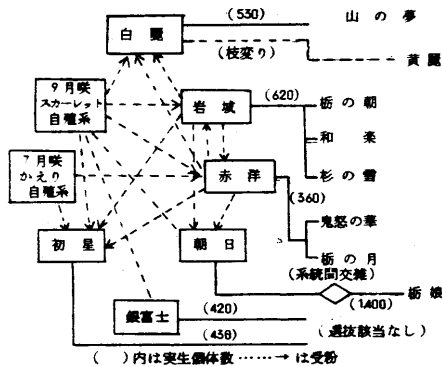
開花始めはとう赤色、開花が進むにしたがいで

第1表 新品種のおもな特性比較

品種名	母品種名 花 色	花色・花型	開花始期 月 旬	草丈 cm	3.3㎡当切 花収量・束
栃の朝	岩城・白	白心赤・八重	5下～6中	70	14.5
和	〃	紫紅・二重	6上～6中	75	17.0
鬼怒の華	赤洋・紅	とう黄・八重	6中～6下	87	22.0
山の夢	白麗・乳白	純白・丁字	6中～6下	72	16.4
杉の雪	岩城・白	白・八重	6下～7上	85	27.5
栃の月	赤洋・紅	黄・二～三重	6下～7上	70	18.0
栃娘	朝日・白紅	濃紫紅・八重	6下	105	17.3
黄麗	白麗・乳白	黄・丁字	6下	98	18.6
岩城(対照品種)		白・八重	5下～6上	50	7.0
朝日(〃)		白心赤・八重	6下～7上	65	9.5

注. 栃娘, 黄麗は1973年, その他は開花始期が1969～73年の範囲, 草丈, 切花収量は1970年成績。

交雑 1967年 1970年 1975年



第1図 受粉関係と選抜品種

とう黄色となる八重咲き立性の長弁で, 特殊な花色花型である。小葉が密につき, 草丈は伸びやすいが倒伏の防止及び草姿の点から施肥量は少なめがよい。命名は花色から, 鬼怒の流れにはえる夕陽の華模様になんだ。

4. 山の夢(やまのゆめ)

花心部が緑色味を帯びる純白の丁字咲きで, 茎は茶を帯びた緑色で非常に強く, 立性の濃緑照り葉で草姿の調和が極めてよい。吸枝の発生はやや少ない。命名は育成者の夢の結晶という意味によった。

5. 杉の雪(すぎのゆき)

白色八重咲きの中晩生種で, 草丈の伸び良く小葉で分枝角度もよいが, 花首はやや長めとなる。吸枝の発生が多いので, 栽植密度はあらく, 施肥量は少なめにするのがよい。命名はその株立ちと花色から, 風雪に耐えて林立する杉並木と, それにかかる雪になんだ。

6. 栃の月(とちのつき)

黄色二・三重弁で, つぼみの先端が多少だいたい色を帯びることがある。茎, 花首ともに極めて強く, 倒伏することは全くない。吸枝の発生数は普通であるが, 株からやや離れて発生しやすい。命名は花色から栃木の里の名月の意である。

7. 栃娘(とちむすめ)

濃い紫紅色の八重咲きで, 満開となっても退色しにくい。茎太く高性で吸枝の発生数は普通, 越冬中はもとより春先の低温にも特に強い。多肥では花のそろいが乱れることがある。命名はとちっこ(娘)の健やかさと情熱を意とした。

8. 黄麗(おうれい)

白麗(商社発売品種)は乳白色丁字咲きで, 花色に難点があったが, その黄色枝変りである。夏ギクとしては花型が特異であり, 耐冬性, 茎の強さもすぐれている。分枝角度はやや広い。命名は母品種名になんだ。

IV 摘 要

栃木県の黒ボク畑地においても, 耐冬性のすくわした夏小ギク品種の育成を目的として, 交配選抜を実施した。その結果1967年交配から6系統, 70年交配から1系統, 及び枝変り1系統を選抜し, 新品種として命名し, その特性をも明らかにした。

引 用 文 献

- 岡田正順. 1957. 花き園芸講座(2): 13～20
- 郡馬農試花き試験成績. 1970.: 29～33

栃木県農業試験場研究報告第18号正誤表

ページ	行	正	誤
目次(英文)	25	○ Z. Ogane	× S. Ogane
"	下から 8	○ O. Cho and A. Kato	× and O. Cho...
24	左下から 1	○ 少数誘殺	× 小数誘発
26	左下から 2	○ ニカメイガモドキ	× ニカメイドモドキ
29	右下から 12	○ 検討した	× 検定した
31	第2図中の品種名	○ 改良=糸種	× 改良
38	右 7	○ 3段階に	× 3段に
"	第1図はんれい	○ ——— H. F.	○ ——— H. F.
59	第4表 右欄	○ 47・2	× 447・2
67	右下から 4	○ 着花節位	× 着果節位
80	右 20	○ 葉数	× 葉株
94	第1表 上欄	○ 置換性塩基me/100g	× 置換性塩基me 100g
100	右 22	○ 生育に影響 <sup>25)</sup>	× 生育に影響 <sup>25)</sup>
102	右下から 6	○ 3. ———,	× 3. × .
106	水稻の項第3課題め	○ 107ページで重複するのでこの項を削除	
115	上から 9	○ 冬どおり	× 冬ビリ
124	下から 4	○ 昭和43 早出し	× 1968 見出し
"	下から 2	○ 早出し	× 見出し
130	下から 2	○ 昭和47	× 昭和49